



発行所
飯田市竜丘公民館
編集人
竜丘公民館広報委員会
印刷所
龍共印刷株式会社
上郷町黒田 ☎22-5353

人 □ 6,215 人
男子 2,986 人
女子 3,229 人
世帯数 1,730 戸
(2月末日現在)

今、丘をみつめ、丘をつくる

第10回 竜丘市民大学講座開講さる

公民館主催による第十回竜丘市民大学講座が、「今丘をみつめ、丘をつくる」を共通テーマに、一月下旬から三月月上旬にかけて五講に亘り開催された。今回は、講座発足十周年の節目にあたって、公民館の六十三年度事業計画の中で重点事業に据えられ、充実した講師陣による講演、加えて講演後の有志座談会、十周年記念懇談会が行われ、記念すべき年に相応しい内容となった。暖冬とはいえ、寒さ厳しい折に、延べ四百三十名が受講し、講師の熱心に真剣なまなざしで聞き入った。

竜丘市民大学講座は、昭和五十四年に始まり、今回で十回目を迎えたが、その発足当初から、一貫して地域への理解を深めることをテーマに据えて、歴史、民俗、地理、自然、文化等の様々な分野から学習内容を編成し開講してきた。あえて、「竜丘」に固執してきた背景には、より積極的になれば、目まぐるしく変化する現代社会において、ともすると私的な生活の利便性を追及し、物質優先、或いは都市化指向に流されがちな現状の中で、地域の特個性や貴重な素材としてのそれらによって育まれてきた心と魂の問題に目を向けられなくなってきたことに對する批判が込められていたといえる。大規模な開発が進行し、地域が急速に変貌しようとしている竜丘において、魅力ある地域をつくりあげていく方策を探り、共に考え合う一つの契機がこの市民大学講座である。

【第十回講座の内容は次のとおり】
第一講 一月二十二日 ◎講師 山本茂実氏(作家)



約2千回の講演をこなす山本先生

重なる契機となった。

第二講 二月六日 ◎講師 松澤太郎氏(前飯田市長)

◎演題 「魅力ある地域の創造」―真のふるさと創生とは―

◎四期十六年に亘り市政のトップに立ち、昨秋勇退された松澤先生が、これからの地域づくりのあり方についてご講演された。先生はまず地域づくりを進める上では、精神的な面と物質的な面の両面からアプローチしていくことが重要であることを前置きされ、これまでの市民大学講座が特に後者からのアプローチに欠けていた点を指摘された。続いて、ふるさと創生の概念が生まれるまでの背景を、地方の時代が叫ばれ出した昭和五十年代初頭からの一連の流れの中で明確にされ、本論では、真のふるさと創生の為に、地域の人が地域の特個性を踏まえた上で確固とした価値観を確立し、その価値観を次第に共通のものに育てあげ、意志の統一を図って行く中で、地域づくりを考へ、進める事が重要であると考えた。

「今丘をみつめ、丘をつくる」を共通テーマに、一月下旬から三月月上旬にかけて五講に亘り開催された。今回は、講座発足十周年の節目にあたって、公民館の六十三年度事業計画の中で重点事業に据えられ、充実した講師陣による講演、加えて講演後の有志座談会、十周年記念懇談会が行われ、記念すべき年に相応しい内容となった。暖冬とはいえ、寒さ厳しい折に、延べ四百三十名が受講し、講師の熱心に真剣なまなざしで聞き入った。

◎演題 「魅力ある地域の創造」―真のふるさと創生とは―

◎四期十六年に亘り市政のトップに立ち、昨秋勇退された松澤先生が、これからの地域づくりのあり方についてご講演された。先生はまず地域づくりを進める上では、精神的な面と物質的な面の両面からアプローチしていくことが重要であることを前置きされ、これまでの市民大学講座が特に後者からのアプローチに欠けていた点を指摘された。続いて、ふるさと創生の概念が生まれるまでの背景を、地方の時代が叫ばれ出した昭和五十年代初頭からの一連の流れの中で明確にされ、本論では、真のふるさと創生の為に、地域の人が地域の特個性を踏まえた上で確固とした価値観を確立し、その価値観を次第に共通のものに育てあげ、意志の統一を図って行く中で、地域づくりを考へ、進める事が重要であると考えた。

区民の悲願実る

上川路公民館新築

上川路にも、いよいよ新しい公民館ができる運びとなりました。今、設計事務所にて本館の設計をお願いしてある処です。設計ができた次第に区民の皆様に見ていただき合意が出来た処で工事にかかる予定です。

現時点では、総建坪八〇坪で、約三千二百万円位。それに付帯工事其の他が三、四百万円位プラスされることと思います。

市助の助成金八百万円の他は、全部地元負担金と寄付金等で決済するわけです。県でOKが出次第に着工して本年中に完成すれば幸いだと思っております。

現在の公民館も建築されたから約七十年位たっているようですが土台も切石が敷き詰められてその上に築き上げられておりました。

これは、寺の景観を居すことや、尊い文化財のある場所の環境を保全する意味から他に移転新築する事として、場所の選定に二転三転したわけですが、それを知られた清水雪江さんが、六畝余りの高額の土地を敷地として寄付しようとして決定されたと言います。この公徳は長く後世に残すようにしたいと思っております。

折りよし平成元年の、上川路の記念すべき大事業になったわけですが、区民一同の和の結集によって、立派な集会所が完成されていくという集会所を通して、住みよい活力ある上川路の郷が建設されれば幸いです。

今後まだまだ区民の皆様にご無理をお願いすることが沢山ありますが、ご協力を頂いて立派に完成されることをお願いいたします。(区長 横井保)

鉛筆について

時又初午はだか祭りが、三月十二日に盛大に行なわれました。近年に近く暖かい日若者の中では汗をかいてかたづけのは始めてだと言う人も多い様でした。

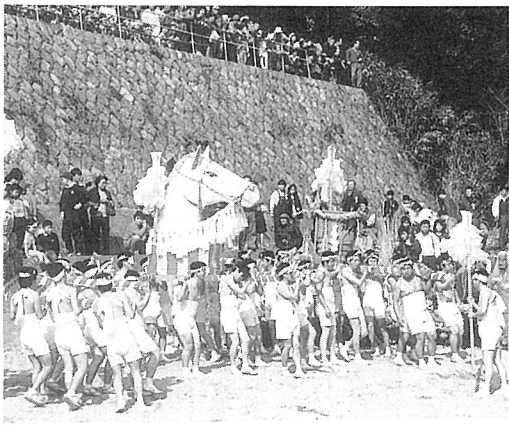
初午はだか祭りは「春を呼ぶ祭」「飯田三大祭りの中の一つ」とご存知の方も多いと思いますが、当日までには大変な日数がかかっている事を取材して気がつきました。

祭りには「時又初午はだか祭り保存会」と「時又はだか祭り実行委員会」という二つの会があり、組織と

手づくりの祭 支える力

一、関係諸団体、事業所への支援依頼
一、財政の確保
一、保存会員の拡大
一、その他PR、対外的交渉が主な活動でした。

実行委員会は、はだか祭りの準備から当日かたづけ



盛大に行われた今年の祭り

今年、来年、といろいろ考の祭りの形が一番良いと言う事なく、手作りの祭りと言いう事で、反省会を出た意見、感想を元に去年より

今年、来年、といろいろ考の祭りの形が一番良いと言う事なく、手作りの祭りと言いう事で、反省会を出た意見、感想を元に去年より

今年、来年、といろいろ考の祭りの形が一番良いと言う事なく、手作りの祭りと言いう事で、反省会を出た意見、感想を元に去年より

今年、来年、といろいろ考の祭りの形が一番良いと言う事なく、手作りの祭りと言いう事で、反省会を出た意見、感想を元に去年より



地域の意志統一を!!

すつかり春になりました。樹々は新しい芽を吹き、鳥や虫たちも生き生きと活動を始める。自然の息吹を肌で感じられて、「自分も自然と一緒なんだ」と改めて実感できる、心ウキウキする季節です。

でもその反面、この時期、諸事の始まりの時でもあり、意外と忙しいのも事実。皆さんは、いかがですか？ 入園、入学。慣れない事ばかりで小さなお子さんも元気だけど、ちょっと疲れの時ですね。お父さんお母さんも参観日、家庭訪問と楽しみでもあり、心配でもあり、面倒でもあり……。

新社会人は、電話のベルに飛びあがり、恥ずかしくてまともに受け答えできなかつたり、仕事で大変な事だよね、一つ一つが大変な事だから。後々の失敗の元ですから、先輩諸氏の言葉はちゃんと受けとめて頑張りましょう。

いろんなスタートが切られました。実際のところ、当の本人よりも、周りの事が忙しかつたりする季節。おめでたい義理も、仕事も、農作業も……。

「春眠・暁を覚えず」と眠たくもあり、のんびりしたい気持ちもあるけれど、ここが、頑張り第一歩。がむしゃらになる必要はないけれど、やる気のあるところを見せなきゃ。

慣れない人の一生懸命と周りの人のアドバイスを受けて早く軌道に乗れますように。

そして、春のようなさわやかな「あいさつ」を忘れずにしたいですね。

新春放談会 平成時代の幕明けに語る

時代も「平成」に変わる中、昭和六十三年度竜丘地区新春放談会が去る一月二十九日、竜丘公民館で行なわれました。田中飯田市長を始め各種団体の代表、一般参加も含め六十二名が出席し、新たな時代を迎えるの抱負や、今後の竜丘をどう創り上げて行くのかについて各々の立場から幅広い意見が出されました。

まず主催者を代表して田中公民館長より、現在私達が抱えている問題には「心の問題」と「緑（自然）の問題」があり、この克服なくして未来の展望はないとの問題提起がされました。続いて田中市長より、飯田市の人口も戸数も、人口の増えている竜丘は発展している地域であり、全市近隣地区より注目を浴びている桐林クリンセンター周辺の開発に市としても力を入れていきたい。又、治水対策や時又港の整備、更には三遠南信自動車道、中央新幹線等については地域の良さを活かした開発を進めたいとの挨拶がありました。

放談会の中では、下水道の整備（長野原区長 国道沿線に移り変わる商工業の有り方（商工会） 緑を守る（一戸一緑運動（財産区） 自然に親しみ豊かな子供達（小学校、育成会） 子供に



田中市長を迎えて

対応できる親の資質向上（PTA）高令化社会に向けボランティア精神の育成（日赤奉仕団）雇用問題（身障協）ワゴン車の購入（老人学園）無火災の継続（消防団）防犯灯の設置（防火防犯）等々、様々な方面より生活環境、社会環境、自然環境を守り、心豊かな地域づく

しい等の意見が出されました。新春放談会も今年で十数回を数え、様々な紆余曲折を繰り返しながら現在の様々な各種団体の代表による意見、要望の発表形態に至るわけですが、やはり当初のねらい通り一般参加を増やす中で、自由な立場から自由な発言、提言を出し、自由な討論、放談の場として行くのか、今の形態の中でテーマを設定したり、分散会形式を取り入れながら充実したものにするのか等、新しい方向性を検討し打ち出して行く時期にきています。更に今回出された提言をどう取り上げ、活かしていくかも重大な課題です。

「心」 飯田市民昆虫友の会会長 中島 捷 63年度PTA会長 待たしいと思えます。 過日、あ、野麦峠」の著者山本茂美先生の講演会を公民館、育成会、PTAの三者で共催しましたが、先生は今の家庭教育について次のように警告されました。 「今、日本の子供は世界中で一番不幸である。親がど

ために現状をはっきりと認識し、子供の成長の過程のその時々的確に対応することが出来る親となるための地道な学習活動が今特に求められております。 国際化と言われ、高度情報社会へとひた走る日本この社会へ飛び出す子供達は大変です。大人の責任は重大です。 地域において も子供達に 役買わせる場 を与えない。 すべての家事 を親がやり、 欲するものは すべて買い与 え、そうすることが真の愛情と考えてきた結果が、知らず知らずの間に子供の心からがまんする心、物を大切にしない心、いたわりの心の芽生えを摘みとってしまったのでしょうか。 「たくましく心豊かな子供」は親共通的願いです。その

「春の女神」と親しまれる黒と黄色のダンガラ模様のギフチョウは、毎年桜の花の咲く頃だけ人里近くに姿を見せます。 かつてはこの地方にはかなり多数見られたのですが、都市化に加え三年程前から全国各地からマニアが押しかけるようになり激減し、このままでは絶滅の恐れさえ叫ばれるようになってきました。佐渡の「二の舞」にはするまい、と地元有志を中心に「飯田昆虫友の会」が保護に立ち上がりました。もはや、そっとして見守るだけではすまない

「残そう自然!!」 飯田昆虫友の会事務局 松 下 重 雄 段階を迎えたのです。 あらゆる機会や報道を通じて保護を訴え、自費で看板を立てて回りました。そんな中で十一月に行なわれた「竜丘地区文化祭」での保護を訴えた展示が多くの人目を引き、竜丘小学校長の荻原先生が強く共感され、これが縁で第一回目の食草移植作業が六年生全員で行なわれたのです。これらの活動が認められ今年一月三十一日には、飯田市全域のギフチョウは文化財として市天然記念物に指定されるに至りました。そして今回、ギフチョウの目覚める前に急いで第二

「チームワークでめさせ優勝!!」 ミニソフトボール・綱引大会 去る二月十九日に、六十三年度最後の体育事業であるミニソフトボール・綱引き大会が行われました。ミニソフトボールは、普通のボールと違いスピード感はありませんが、それゆえに数多くの珍プレーが見られ、又見た目には簡単そうに見えましたが、各選手ともかなりの運動量に息を切らせ、又ずい所にフライングプレーを見る事ができました。 綱引きの方は、年々盛んとなり、各種の大会が開かれる様になりました。その為か試合の勝敗を決める力ギとなるものが、パワーだけでなくチームの作戦や、チームワークといった具合に技術が問われる様になってきました。練習不足のせいか、初戦は息があわないチームが見られましたが、

民館、図書館、社会体育、芸術文化、青少年育成等の社会教育活動全般において顕著な功績があった個人、又は団体に感謝状と記念品が贈られるのだが、この日は特に公民館活動において功労のあった二十三名に対する表彰が行なわれた。 竜丘地区の受表彰者は次の方々。 ○塩澤聡さん（長野原・通算二十一年） ○林直人さん（桐林・通算十九年） ○筒井保治さん（時又・通算十六年） これまでのご功労に感謝申しあげますと共に、今後地域域の社会教育の充実、発展に益々ご活躍されんことを望みます。

グループ紹介

竜丘には大小合わせて一四〇基余の古墳があります。 県下はもとより全国的に見ても一地区にこれだけの数の古墳が密集しているところは他に

「語るう古代のロマン 「古墳を考える会」 塩 澤 義 男 人達がどんな想いで、どんな生活をしてきたのか、夢は果てしなく広がってゆきます。そんな想いをこめてできてきたのが、「竜丘の古墳を考える会」と言うグループです。 昭和六十二年の春竜丘フオーラムの一つとして、公民館の音頭で、呼びかけがあり、取り組みが開始されました。現地見学会・研究会等会合を重ねて、昨年の

現在公民館より委嘱された企画委員で運営していますが、もう少しすると地権者の方々も一緒に古墳を考えると、会員も公募して、古墳の素材をいかした街づくりを考へることで、先人の遺してくれた文化財を後世に伝えることが現在を生きる我々の責務であると思えます。 標識板をたてたり、「古墳マップ」をつくって全戸配布をしたり、明治の初期の竜丘の地図を再現して、そこに小字と古墳をおとしみせる作業など、色々な計画があります。

古墳とはなんだろう。他所の地区にはなくて、どうして竜丘だけにこんなに沢山の古墳がつくられたのだろうか。いつごろだれがどの様にいつつくったのだろうか。個人の物であって、も、みんな仲間のものであるような感じのする古墳。 墳丘の上にあたって、竜丘の地形を眺めるとき、古代の

を考へる会が正式に発足して参ります。 古墳の宝庫と言われる竜丘に今、開発の波が押し寄せて、いくつもの古墳が姿を消しそうになっています。現存する古墳は四十

画があります。

「春の女神」と親しまれる黒と黄色のダンガラ模様のギフチョウは、毎年桜の花の咲く頃だけ人里近くに姿を見せます。 かつてはこの地方にはかなり多数見られたのですが、都市化に加え三年程前から全国各地からマニアが押しかけるようになり激減し、このままでは絶滅の恐れさえ叫ばれるようになってきました。佐渡の「二の舞」にはするまい、と地元有志を中心に「飯田昆虫友の会」が保護に立ち上がりました。もはや、そっとして見守るだけではすまない

「古墳を考える会」 塩 澤 義 男 古墳の宝庫と言われる竜丘に今、開発の波が押し寄せて、いくつもの古墳が姿を消しそうになっています。現存する古墳は四十画があります。

「古墳を考える会」 塩 澤 義 男 古墳の宝庫と言われる竜丘に今、開発の波が押し寄せて、いくつもの古墳が姿を消しそうになっています。現存する古墳は四十画があります。



ヨ〜〜イショ!